

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (津東高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		地域における進学校としての教育・進学ニーズに真正面から応える学校。 自立・進取の気概を持ち切磋琢磨に努め、不断の進化を続ける学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	「向学立志」の校是を理解し、自らを磨くため、高い目標を持って学習や部活動に取り組み、真摯に自分自身の人生の進路を切り拓こうと励む生徒。
	ありたい 教職員像	基本的な生活習慣、確固とした基礎学力を土台に、生徒一人ひとりの価値観の確立・自己実現や、心豊かな人間性の創造を支援する教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> できれば国公立大学に進学したいと希望しており、それを実現できるよう、学力を付けられるわかりやすい授業を望んでいる。</p> <p><保護者> 子どもをできれば国公立大学に進学させたいと希望しており、それを実現するための授業力・進路指導力を期待している。</p> <p><地域・県民> 地域に貢献でき、学力に見合う豊かな人格と心を持つ生徒の育成、地域社会を担い、社会貢献する生徒の育成を期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者・PTA> 確かな学力と進路保障、豊かな情緒や人格形成をして欲しい。</p> <p><地域> 地域の活性化に協力し、信頼できる学校となって欲しい。</p> <p><進学先(大学等)> 基礎学力と明確な目的意識、課題解決のための「思考力・判断力・表現力」を育んで欲しい。</p> <p><学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 高校卒業後の進路状況などの情報提供をして欲しい。 (高校生対象の学習塾) 大学入試に向けた連携をして欲しい。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者・PTA> 家庭での学習環境整備と学校教育活動に理解や協力をして欲しい。</p> <p><地域> 学校教育活動に理解や協力をして欲しい。</p> <p><進学先(大学等)> 生徒の進路希望実現のための情報提供をして欲しい。</p> <p><学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 中学生保護者へ本校教育活動の情報提供をして欲しい。 (高校生対象の学習塾) 大学入試関連の情報提供をして欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○部活動との両立に悩んでいる生徒にどう対応していくか、議論していく必要がある。</p> <p>○「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす」ことの指標設定は難しいが、目標を校内で意思統一していくことが重要である。</p> <p>○全県立学校の平均に比べて過重労働時間が長くなっているため、削減に向けて具体的な取組を考えていく必要がある。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>生徒の学校生活は落ち着いており、学習や部活動に熱心に取り組んでいる。ただ、大人しい生徒が多く、自主性や積極性にやや欠け、高い目標設定をせず諦めてしまう場合がある。きめ細かな指導により自尊感情や学習に対する意欲が高まり、国公立大学への進学者も増えている。引き続き課題の量や質を教科横断的に調整し、個々の学力に応じて必要な負荷を掛ける一方で、学習内容や量を自ら選択できるように習熟度別課題を用意するなど、生徒が主体的・自立的に学習に取り組める仕組みを工夫する必要がある。</p>	

学校 運営 等	職員の過重労働時間が長くなっているが、生徒の進路希望実現のため、教科指導や進路指導等の時間は削減できないので、それ以外の業務で時間短縮できるよう、学校運営のさらなる効率化を図る必要がある。「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす」という目指す姿の具現化のため、校内の縦横の連携を強化し、職員の意思統一を図る必要がある。
---------------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○生徒の進路希望実現と「生涯学び続け得る学力」をつけるために、生徒の学習実態を定期的に調査するとともに教員の授業力向上に学校全体で取り組み、生徒への「しかけ」や校内の「しくみ」について検討する。また、学習指導要領改訂や入試制度改革などの変化を本校の教育活動に取り入れるため、情報収集や研修会を進めていく。</p> <p>○部活動と学習の両立のための時間の使い方など、基本的な生活習慣を確立させる。一人ひとりの自尊感情を育成し、命の大切さや主体性につなげる一方で、人の気持ちを理解し他者と支え合いながら社会を創っていく社会人基礎力を育む。</p>
学校運営等	<p>○学年や分掌間で連携し、明るく相互に認め合い協力し合える組織文化を培うとともに、情報共有のしくみを作るなど、職員相互の対話と情報共有を促進し、学校全体の組織力を向上させる。</p> <p>○過重労働時間削減のための具体的方策について話し合うなど、より働きやすい職場づくりに取り組む。</p> <p>○学校運営への保護者・地域住民の参画を呼びかける。またホームページによる学校教育活動の情報提供を充実させるなど、開かれた学校づくりに取り組む。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路希望の実現	<p>○手厚い教科指導を行うことで、基礎学力の充実を図る。</p> <p>○生徒に様々な機会・方法で進路情報を提供し、視野を拓げるとともに、意識啓発を行い将来に向けて高い目標の実現に向けて最後まで最大限努力する姿勢を育む。 センター試験出願者:90%以上 国公立大学出願者数:160名</p> <p>○進路希望や学習状況などを正確に把握し、生徒の心に寄り添った個人面談を継続的に実施する。</p>	<p>○SHR時小テスト、成績不振者に対する基礎力補講等の実施、課題回収の徹底、習熟度別課題の提供、学習記録ノートの点検など、きめ細かな指導の実施。</p> <p>○進路に直結したガイダンスや講演会だけでなく、総合的学習の時間での地域課題学習や志願理由書学習を通して、将来の生き方を考える機会の設定。希望進路の実現に向けて主体的に行動する力を付けられる3年間の指導計画を立案、実施。 ・センター試験出願者：94% ・国公立大学への出願者：未定</p> <p>○年2回の面談週間や文理・科目選択の時だけでなく、個々の学習状況に応じて面談を実施。2年Sクラスでは、冬期休業前に全員の保護者と面談を実施。</p>	

	<p>○補講、学習マラソン、特編授業などタイムリーかつ有効な企画を通して、学習意欲の向上を図る。</p> <p>○教員の指導力向上に向け、進路と学年との間で進路懇談会を開催して連携を密にするとともに、入試研究会・教科研修会へ積極的に参加する。</p> <p>○昨年度見直した総合的な学習の時間を組織的に検証し、生徒が3年間で自ら社会貢献できる生き方を見い出せるよう支援する。</p> <p>○奨学金制度の紹介や手続きを行い、経済的な面から生徒の進路希望の実現を支える。</p>	<p>○考査前の質問会や土曜質問会の他、課題提出強化週間の設定など、生徒の状況からその時々に必要な取り組みを実施。</p> <p>○進路懇談会：1年生と10回、2年生と12回、3年生と29回実施。 入試研究会参加教員：のべ70人 教科研修会参加教員：のべ12人</p> <p>○表現力指導Ⅰでは、より具体的に課題解決を考えられるよう、論題を設定。自らの成長を実感できるよう、ポートフォリオの作成。表現力指導Ⅱでは、Ⅰで身につけた力をさらに発展できる仕組みの構築。</p> <p>○厳しい社会情勢から増加している奨学金希望生徒に対し、きめ細かな情報提供と丁寧な説明、指導を実施。</p>	
<p>学習環境の整備</p>	<p>○学習指導要領改訂や入試制度改革などに合わせ、教育課程の問題点や単位制、習熟度別授業、S・Fクラスのあり方について、引き続き検討する。</p> <p>○授業時間の確保に努めるとともに、授業アンケートを活用し、授業の改善や教科指導力の向上につなげる。</p> <p>○「学習記録ノート」を活用し、家庭学習習慣の確立につなげる。(家庭学習の目標：平日120分、休日180分)</p> <p>○平日の始業前、放課後および学校休業日に教室や図書館を開放し、生徒が主体的に自学自習できる環境を準備する。</p> <p>○生徒が落ち着いて学習できるよう、学習環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員による清掃確認：年16回 ・大掃除(中掃除を含む)：年9回 ・ゴミゼロ運動・夏季除草作業 ・クラブ一斉清掃：年3回 	<p>○入試制度改革に対応するため、津市内3校で新テスト研究チームを立ち上げ、指導方法の研究を推進。来年度1年生のクラス編成変更に伴い、少人数習熟度別編成の見直しを実施。</p> <p>○振り替えにより、授業時間確保に尽力。6月と11月に授業アンケートを実施し、各教科に結果を返すことで授業改善に活用。</p> <p>○生徒に記入呼びかけをすると同時に、担任がコメントを記入することで、家庭学習の重要性を意識付け。結果として定期考査前には、学習時間が増加。</p> <p>○学習環境整備のため、夏場や冬場にはエアコンで温度調節した教室を用意。</p> <p>○学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員による清掃確認：13回実施(○回予定) ・大掃除：4回実施 ・ゴミゼロ運動・夏季除草作業・クラブ一斉清掃：2回実施 	

	<p>・机、椅子、教室のカーテンの適宜交換。</p>	<p>・机、椅子、教室のカーテンの適宜交換：新品の不足により、十分な対応はできず。</p>	
自主性・主体性の育成	<p>○生徒自らが課題を見つけ、解決する能力を身につけるため、課題解決型の授業を展開する。また、自分の弱点を分析して、それに合った課題を選んで取り組めるよう習熟度別課題を用意する。</p> <p>○より能動的に学校行事や部活動に取り組めるよう具体的な仕掛けを繰り返す。</p>	<p>○「生徒が考え学び合う授業」を目指す授業力向上チームが中心になり、授業公開とその後授業研究会の実施【「県立学校活性化計画」(1)新しい時代に求められる学びへの変革】。1学年の英語や国語で、習熟度別課題を実施。</p> <p>○学校行事により能動的に取り組むよう、成果をクラス対抗で表彰する仕組みを構築。</p>	
安全・安心な学校づくり	<p>○いじめや差別を許さず、ひとりひとりの個性の違いを認め、互いに尊重し高め合うことができる仲間づくりを支援する。</p> <p>○自らの健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることのできる生徒を育てる。 個別の保健指導(視力/口腔の健康など):年2回以上</p> <p>○心の面でバランスを崩した生徒へのケアのため、校内外様々な機関と連携し適切なケアを行う。 ・保健室利用状況の報告と学年との情報交換:年10回 ・教育相談係との連携:年20回</p> <p>○施設の老朽化に留意しながら適切な維持管理を行う。</p> <p>○実効性のある防災、危機管理教育や訓練を目指して、教育訓練を行う。</p>	<p>○1学年では、いじめ防止のためにできること、すべきことを具体的に考察。全学年で男女共同参画や多様な性、生き方について考察。</p> <p>○健康への関心の向上 ・個別の保健指導(視力/手洗い)2回 ・保健だよりの発行:10回 ・性教育講座:1回</p> <p>○心のバランスを崩した生徒のケア ・保健室利用状況の報告と学年との情報交換:8回実施 ・教育相談係CSとの情報交換:20回実施</p> <p>○予算確保に努めながら、優先順位をつけて施設の維持管理を実施。</p> <p>○台風被害の増加に対応し、台風時の避難に関する講演の実施。</p>	
自尊感情と社会人基礎力の育成	<p>○心身共に健全健康になる心のケアを念頭において、生徒との対話を丁寧に行うほか、小さな成功体験を積み重ねて自信をつける機会を設け、自己肯定感や自尊感情を育成する。</p>	<p>○保健室、教育相談、クラス担任、クラブ顧問など、多方面から面談を実施。小テスト、習熟度別課題など、取り組みやすい課題を設定することで、成功体験につなげる機会の設定。</p>	

	<p>○様々な機会をとらえて、生徒の知識背景を豊かにし、広い視野を身につけることで、人間関係のあり方や社会問題に関心をもち、望ましい集団や社会実現に向けて行動できる力を育成する。</p> <p>○どんな場面でも元気よく挨拶ができる態度の育成のため、常に職員からの声掛けを心がける。状況に応じて、きちんとした言葉遣いで話すことができる力を育成する。</p> <p>○学級活動や学校行事、部活動等を通じて、生徒が自主的、主体的に活動できるような場面設定に努める。</p>	<p>○1年生表現力育成Iでは、三重県の地域課題を提示。その後課題解決に向けた話し合いを実施し、考えをまとめて発表する取り組みを実施【「県立学校活性化計画」(4)地域で学び地域を活かす教育の推進】。3年生に対しては、「新聞を読もう」を21回実施。</p> <p>○職員室入口に入室マナーを掲示し、その都度声掛けをするなど、きめ細かな指導を実施。</p> <p>○学年LHRのイベントを、自主的に進められるよう、企画を室長会に委託。</p>	
--	---	---	--

改善課題

新学習指導要領や新しい大学入試制度では、思考力・判断力・表現力などがより一層求められることになる。これに対応するため、あらゆる場面で生徒が主体的に判断し活動するような教育活動をどのように展開していくか、カリキュラムも含め、学校全体で検討していく必要がある。総合的な学習の時間で取り上げている「地域課題」を核に、生徒が将来を見据えて主体的に考え、学び合う場を設定することで、さらなる学習意欲の向上を目指していく必要がある。素直ではあるが、なかなか自信が持てず、高い目標を持って粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多いので、引き続き自己肯定感や自尊感情の育成に努めていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>学校全体の組織力の向上</p>	<p>○風通しの良い職場づくりのため、日頃から各学年・分掌・教科をはじめ縦横の連携を密にして、取組に関する情報や生徒情報の共有を図る。</p> <p>○教職員が相互に認め合い、協力し合える組織文化を醸成し、生徒の指導について教員一人が抱え込むことなく“チーム”として対応できるよう、体制を充実させる。</p>	<p>○教科・学年、あるいは学年を超えたSクラス担任での情報交換の機会を増やし、補習・課題の量、及び学年の取り組みの情報共有を実施。</p> <p>○教育相談や生活指導、進路指導に関して、学年と各分掌が連携し、こまめに会議や委員会を開き、情報共有と指導方法への意思統一を実施。</p>	

	<p>○各種研修において意見交換する場を設けるなど、職員が協調して指導に臨めるような雰囲気づくりに取り組む。</p>	<p>○日頃課題と感じていること等、教頭による職員への聞き取りを実施。年内にはストレス軽減や業務改善に関するアンケートを実施予定。</p>	
開かれた学校づくり	<p>○ホームページなどを通じて学校の取組を紹介し、多様な意見を聞くとともに、学校開放に積極的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイリーニュースの更新回数70回以上 <p>○PTA 活動や学校関係者評価委員会を通して、保護者や地域住民の学校運営への参画を進める。</p> <p>○授業公開への保護者来校者数増加に向け、周知広報に取り組む。</p> <p>○学年別の進路説明会で、最新の進路情報を提供する、あるいは、教育相談室を気軽に活用できるよう広報するなど、様々な不安を抱える保護者のため、情報提供に積極的に取り組む。</p> <p>○外部の方に対して、親切丁寧な窓口対応や電話対応を行う。</p>	<p>○学校の取組み紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ記事の更新回数:32回 ・デイリーニュースの更新回数:51回 <p>○PTA 役員会を年9回実施。学園祭、ゴミゼロ運動への参画。学校関係者評価委員会を年3回実施。学校課題への改善提言を得る。</p> <p>○授業公開</p> <p>5月13日 計91名参加(昨年114名参加)</p> <p>○保護者対象進路説明会</p> <p>6月 1年182名、2年142名、3年150名参加 11月 1年135名、2年136名参加 教育相談室利用保護者 昨年度のべ70名</p> <p>○事務室では、迅速な電話対応と親切丁寧な窓口対応に尽力。</p>	
目指す姿の具現化	<p>○生徒の進路希望実現と教員の授業力向上のため、学力向上推進会議を活性化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会の開催:年8回以上 <p>○Sクラスの特徴化に向け、学校ビジョン委員会で検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ビジョン委員会の開催:年6回以上 <p>○目指す姿の具現化とそれに向けた個々の教職員の取組にして、校長と教職員が対話を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長と教職員との面談:一人平均年3回以上 	<p>○学力向上推進会議において、各時期に応じた指導方針の確認の他、入試制度改革を見据えたGTEC4技能導入について検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進会議の開催:5回 <p>○学校ビジョン委員会をにおいて、Sクラス定員増にかかわる中学校向け広報、学校説明会、校内組織の変更などについて検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ビジョン委員会開催:7回 <p>○目指す姿の具現化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長と教職員との面談:一人4回実施 	

働きやすい 職場づくり	<p>○総勤務時間縮減に向けて、以下について学校安全衛生委員会を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間を昨年度に比べて15%縮減する。 ・休暇取得日数を昨年度に比べて1日増やす。 ・定時退校日を月あたり1日設定する。 ・部活動休養日を週あたり1日設定する。 ・放課後に実施する会議は、60分以内に終了する。 	<p>○総勤務時間縮減取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間は昨年度の 31.4 にくらべ、32.7 とわずかに増加。 ・定時退校日の日程は学校安全衛生委員会で検討し決定。採点や個人面談で、在校する教員が数名残る月もあり。 ・年度当初に全部活動で休養日を週あたり1日設定。 ・昨年未までに放課後30回の会議を開催したが、60分を超えた会議は2回。 	
----------------	---	--	--

改善課題

生徒の進路希望実現と「生涯学び続け得る学力」をつけるという本校の教育目標の達成を目指すため、また、きめ細かな指導により自尊感情や学習に対する意欲を高め、国公立大学への進学者も増えていることから、充分時間をかけなければならないことがある。それ以外の部分で、どのように改善できるか、組織力を高めることで働きやすい職場づくりに努めていく必要がある。本年度導入した定時退校日も、なかなか徹底できていない部分があるので、生徒も巻き込んだ取り組みにしていく必要がある。また、今後のSクラス定員増やクラス減を見越し、校内組織の見直しも含め、業務のスリム化を進めていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	<p>○主体的に活動する生徒を育成するために、外部講座など校外の学習に参加させ、またその成果を発表させる機会を設けるなどして、具体的行動モデルを示していく必要がある。</p> <p>○本校での高校生活全体を通してどのような力をつけて欲しいと考えているのか、生徒にメッセージを出し、ポートフォリオなどで振りかえりさせる必要がある。</p> <p>○時間外労働時間が、昨年に比べて増えている。時間外労働が当たり前になってはいけないので、削減に向けた取組を具体的に考える必要がある。</p>
-----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>○生徒が将来を見据えて主体的に考え、学び合う場として、外部の企画を利用したり、生徒が外に出て行くような企画を考えたりして、学校や教員以外からの刺激を受けられる機会を増やしていく。</p> <p>○一人ひとりの自己肯定感や自尊感情育成のため、また生徒全体に目指す姿を示すためにも、学びを発表する場をなるべく多く設けていく。</p>
学校運営についての改善策	<p>○時間外労働時間削減のため、職員アンケートによる削減案を導入し、業務改善に努める。</p>